

新型コロナウイルス影響下での 神戸市北神地域・三田市・西宮市北部に暮らす 在住外国人の生活と労働についての実態調査 報告書

特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

特定非営利活動法人場とつながりの研究センター

2005 年7月立ち上げ、2006 年 11 月 NPO 法人化。「意欲する人」がつながれる場をつくることを目的に、NPO 相談支援やネットワークづくり、まちづくり活動に取り組む。メンバーの「やってみたい」を実現するお手伝いを通して、学習支援「三田まちの寺子屋 まなびあ」(2013～)、子ども食堂「まかないキッチン」(2017～)、児童館プログラム支援など、子ども・若者支援活動にも取り組んでいる。ホームページ →



北神日本語教室

2019年12月より北神区文化センター会議室を借り、毎週水曜日晚に開催している。同年の「北区地域提案型活動助成」を得て立ち上げた(神戸市北区内で初の地域日本語教室)。2022 年 1 月までに、7 か国延べ 500 人あまりの在住外国人が参加。生活に必要な日本語の学習と交流を 15 人の日本語ボランティアがサポートし、同じ地域に暮らす住民としてのつながりを大切に活動している。Facebook ページ →



1. 本調査の概要

(1) 増え続ける在住外国人

兵庫県神戸市北神地域、三田市、西宮市北部は六甲山の裏の「旧有馬郡」にあり、旧地域と新興住宅地が混在した田園地域かつ大阪・神戸のベッドタウンである。市街地から離れた場所で地価が安く、公営住宅やUR 住宅も多いうえ、工場や流通センターなど事業所も多くある。この地域に住み、働いている技能実習生を含む外国籍住民が近年急増している。一方で日本人の働き手が以前より減少し、業績を維持していくには外国人に頼らざるを得ない状況があるためと考えられる。

表1 北区・西宮市・三田市の在留外国人数推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
北区（北神含む）	1,999	2,001	1,982	1,966	1,970	1,939	1,984	2,029	2,139	2,168	2,369	2,362
北神								769	804	794	878	918
西宮市	6,625	6,617	6,399	6,273	6,272	6,242	6,318	6,436	6,615	6,845	7,251	7,292
三田市	950	1,000	975	1,023	1,037	1,009	1,058	1,080	1,118	1,103	1,190	1,216

【出典】法務省「在留外国人統計」。「北神」は、神戸市「データこうべ 月別各種統計表」より

*西宮市は北部だけを抜き出せなかったため、市全域の数値として掲載

表1は、2009 年以降の在留外国人数の推移である。リーマンショック以降、在住外国人は一時的に減少傾向にあったが、2015 年前後から増加傾向にあることが窺える。特に、北神地域では統計を取り始めた2016 年から2020 年を比較すると1.2 倍程度、在住外国人が増えており、三田市でも2009 年から2020 年と比較をすると約1.3 倍増えていることがわかる。

これまで在住外国人の存在について大きく考えられることはあまりなかったかもしれない。しかし、北神地域や三田市、西宮市とも人口のおよそ1～1.5%が外国籍住民であり、この地域でどう彼らと共生していくかを真剣に考える時期に来ていると思われる。

(2) 調査計画について

コロナ禍がいったん落ち着いた後に、技能実習生を含む外国人労働者が再び増えることが予想される。そのときを見越してどのような準備が必要かを考えるにあたり、私たちは「外国人当事者の声を聞くこと」から取り組もうと考えた。外国人自身が地域の「いち住民」として暮らすにあたりどのような困りごとを抱えて生活しているのか、そして、コロナ禍の非常事態をどのように乗り越えたのか、といったリアルな声を拾い上げるために、この地域に住む在住外国人を対象にアンケート調査およびインタビュー調査を実施した。また、暮らしの一部である「働くこと」にも着目し、在住外国人が異国の地で働き、活躍できるための環境整備に何が必要か外国人雇用を行っている事業所の担当者にインタビュー調査を通して探ることとした。

多文化共生社会において、在住外国人は決して「よそ者」ではない。同じ地域に住む住民として困りごとを分かち合い、困ったときは力を合わせて助け合っていく関係を築くためのヒントを、一連の調査から検討し、今後の多文化共生施策に提案したい。

【資料１】 各市域における国籍別在留外国人数の推移

■神戸市北区（全域） 【出典】 法務省「在留外国人統計」¹

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中国	459	462	462	414	390	351	370	369	389	402	450	437
台湾				31	50	59	90	91	100	97	105	96
韓国・朝鮮	1,166	1,142	1,136	1,140	1,135	1,104						
韓国							1,011	971	959	956	932	919
フィリピン	41	43	39	40	40	44	46	58	63	73	87	80
ブラジル	27	24	24	22	21	17	17	43	75	78	129	121
ベトナム	27	32	22	24	25	37	57	78	116	119	198	250
ペルー	7	4	4	6	4	7						
ネパール	1	5	8				11	21	30	30	32	36
アメリカ	79	88	79	71	65	81	81	84	85	83	81	67
インドネシア	11	13	13									30
タイ	13	16	16									21
その他	168	172	179	218	240	239	301	314	322	330	355	305
	1,999	2,001	1,982	1,966	1,970	1,939	1,984	2,029	2,139	2,168	2,369	2,362

神戸市北区全域では、在住外国人は 1.2 倍(2009 年比。以下同じ)に増えている。左下図は外国人全体の国籍別の構成比率であるが、最も多い韓国・朝鮮籍の人は特別永住者が多いため、高齢化とともに近年割合は小さくなっている。中国・台湾、アメリカ国籍の人の割合も大きく変わっていない。

一方で、ブラジル国籍の人は 4.5 倍、ベトナム国籍の人は 9.3 倍と急増している。2009 年には全外国人のうちのベトナム国籍の人の比率は 1%にすぎなかったのが、2020 年には 11%を占めるまで増えている。右下図は 2009 年の人数を 100%としたときの各年の変化率を表しているが、ベトナム国籍の人(青点線)とブラジル国籍の人(黄点線)の増加率がとても大きいことがわかる。

図 1 北区における国籍別外国人構成比率(単位:%)

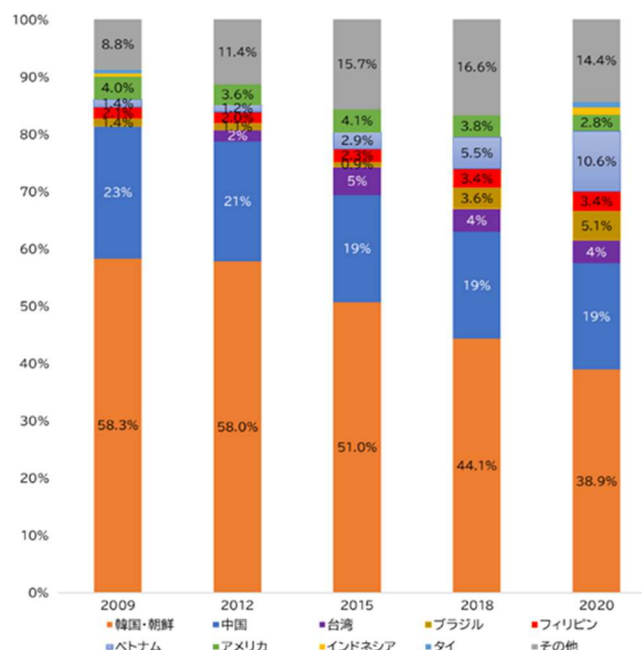
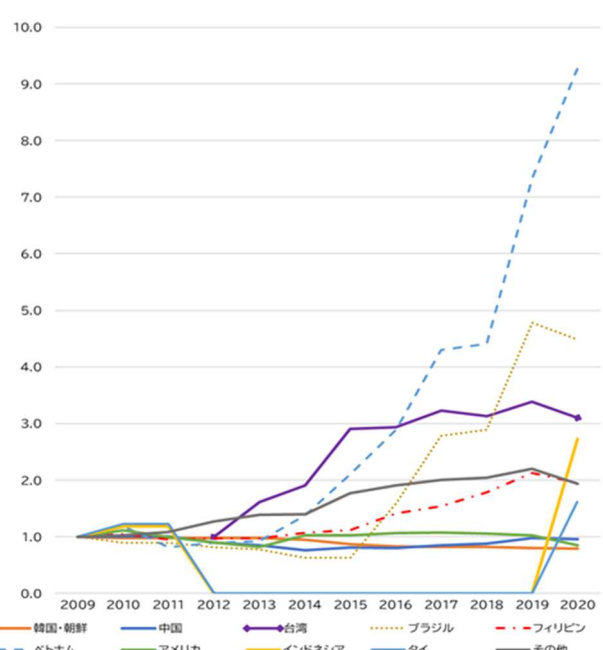


図 2 国籍別在住外国人数の変化率(単位: 倍)
(2009 年の人数を 1 とする)



¹ 「韓国・朝鮮」にかかる表記を 2015 年以降「韓国」と「朝鮮」と区分して表記。また、ネパールは 2014 年まで、ペルーは 2015 年以降、インドネシア、タイは 2019 年まで「その他」に含まれている。以下同じ。

■神戸市北区（北神地域） 【出典】 データこうべ 月別各種統計表 神戸市ホームページ

	2016	2017	2018	2019	2020
中国	126	139	140	166	164
台湾	30	34	35	42	32
韓国・朝鮮	425	413	403	410	386
韓国					
フィリピン	23	19	18	18	19
ブラジル	9	9	8	9	10
ベトナム	50	75	70	97	150
ペルー					
ネパール	18	11	12	10	12
アメリカ	23	21	19	18	18
インドネシア	6	10	16	14	22
タイ	4	6	4	6	12
その他	55	67	69	88	93
	769	804	794	878	918

【神戸市北区北神地域とは】

神戸市北区が南北に広く、南部にある区役所が遠いため、これまでの北神支所を格上げし、1つの行政区に2つ目の区役所となる「北神区役所」を、2019年4月1日に設置した。「北神区」の名称だが、分区していないため、本冊子では断り書きのない限り「北神地域」と表記する。

統計を取り始めた2016年と2020年を比較すると、インドネシア国籍の人を筆頭に、ベトナムやタイ国籍の人が3倍に増加している。北区の南部（鈴蘭台方面）の工業団地ではブラジル国籍の人が多く働いている一方で、北部（北神地域）はインバウンドなどで訪問する外国人観光客を対象とした観光業や建設業、製造業、介護事業などの中小企業にて技能実習生が働いていることが推察される。また北神地域に大手ネット通販会社等の関連事業所の誘致も決まっており、多様な雇用創出もなされると思われる。

図3 北神地域における国籍別外国人構成比率(単位:%)

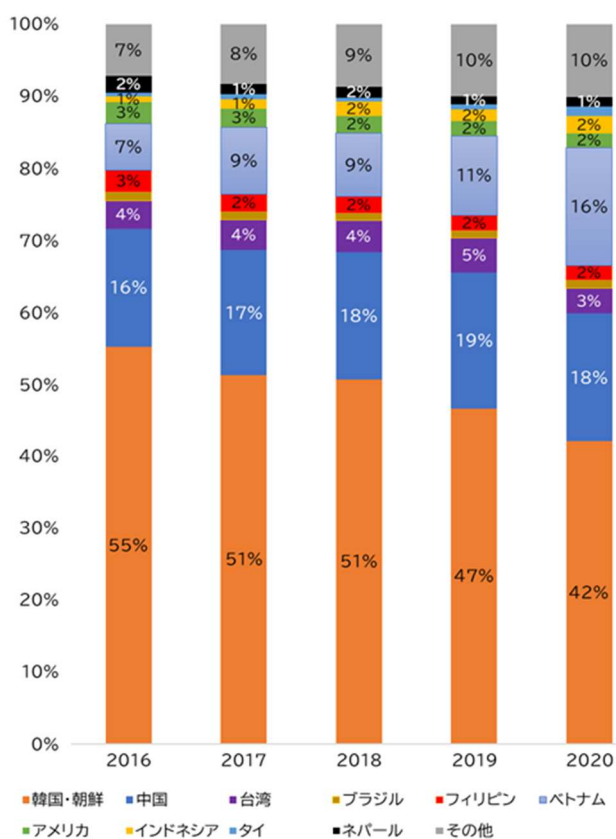
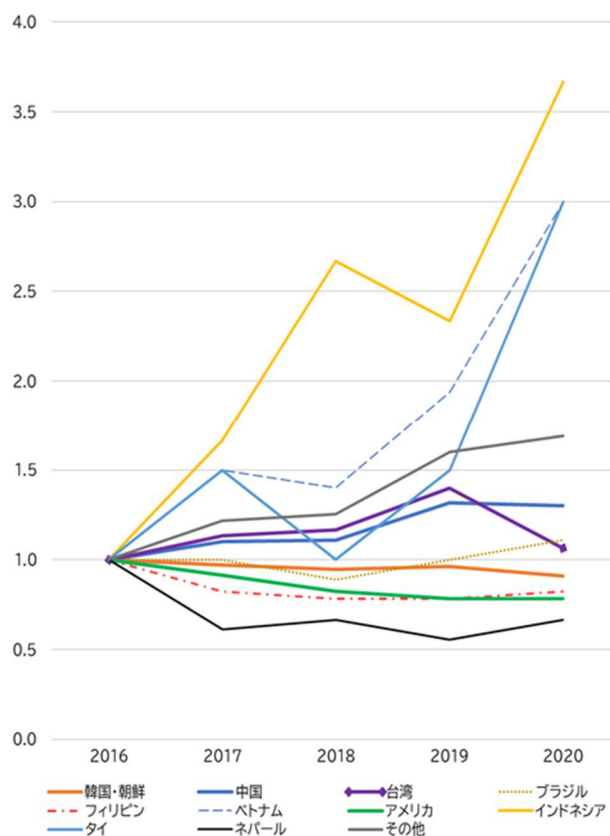


図4 国籍別在住外国人数の変化率(単位: 倍)
(2016年の人数を1とする)



■三田市 【出典】 法務省「在留外国人統計」

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中国	132	149	166	165	169	168	168	184	202	224	243	241
台湾				6	12	14	18	17	21	17	20	26
韓国・朝鮮	526	515	515	497	503	466						
韓国							431	420	402	384	379	357
フィリピン	32	27	24	26	29	36	45	48	46	58	58	59
ブラジル	26	26	18	16	15	15	22	19	19	20	20	27
ベトナム	55	76	52	82	60	45	56	76	116	170	224	276
ペルー	17	13	13	12	11	9						
ネパール		4	4				10	15	17	16	19	16
アメリカ	49	50	55	42	45	34	33	35	34	33	36	35
インドネシア	5	9	11									28
タイ	10	9	9									9
その他	104	122	108	177	193	222	275	266	261	181	191	142
	956	1000	975	1,023	1,037	1,009	1,058	1,080	1,118	1,103	1,190	1,216

ベトナムとネパール国籍の人の増加が顕著にみられる。市内に工業団地やテクノパークがあることや、隣接する北区の事業所に雇用されている在住外国人が通勤のしやすさから住居選択をしている可能性がある。東証一部上場企業にも多くの技能実習生が雇用されており、事業規模の拡大やコロナ禍における業績の好調さの一方で、それらを支える働き手が不足していることが推察される。

図 5 三田市における国籍別外国人構成比率(単位:%)

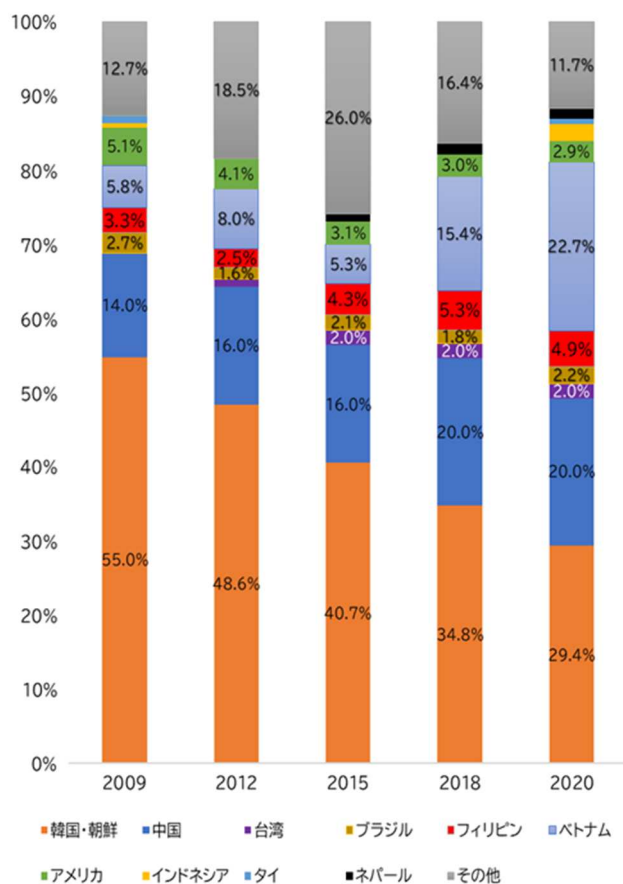
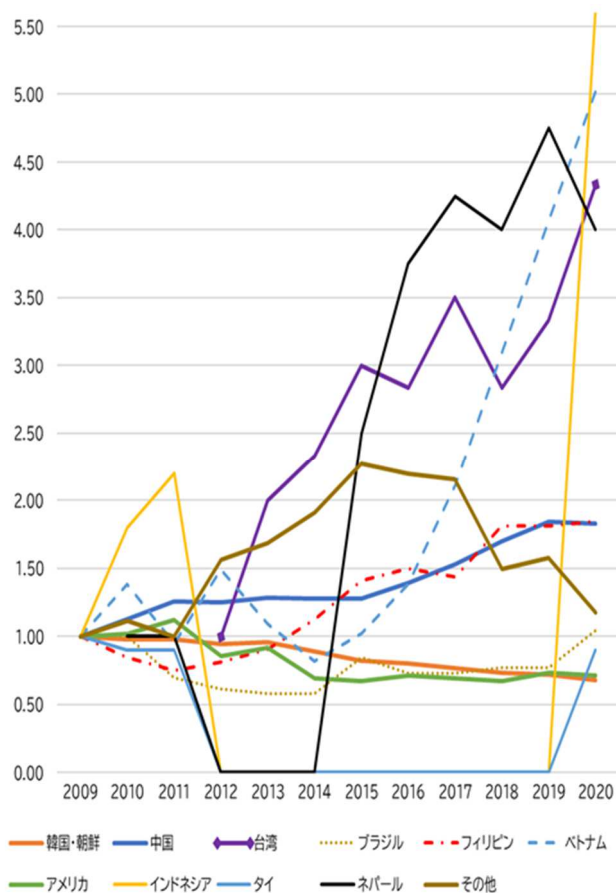


図 6 国籍別在住外国人数の変化率(単位: 倍)
(2016 年の人数を 1 とする)



■西宮市 【出典】 法務省「在留外国人統計」

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中国	1237	1270	1193	1,127	1,131	1,189	1,146	1,179	1,213	1,217	1,335	1,336
台湾				45	70	80	106	132	135	140	169	144
韓国・朝鮮	4,038	3,994	3,913	3,819	3,779	3,694						
韓国							3,290	3,213	3,190	3,114	3,107	3,019
フィリピン	169	171	156	163	172	159	166	163	180	207	226	231
ブラジル	179	173	178	164	153	138	142	140	124	122	118	129
ベトナム	41	45	48	44	46	76	113	206	402	622	793	868
ペルー	32	35	29	30	27	28						
ネパール	18	30	36				88	108	111	127	155	171
アメリカ	256	252	244	249	253	227	274	258	248	253	261	235
インドネシア	30	49	43									67
タイ	55	56	53									70
その他	570	542	506	632	641	651	993	1,037	1,012	1,043	1,087	1,022
	6625	6617	6399	6,273	6,272	6,242	6,318	6,436	6,615	6,845	7,251	7,292

西宮市は南北に広いが、地域ごとの詳細なデータがないため、市全域のデータを掲出した。ベトナム国籍の人が2015年以降毎年200人近く増え、急増している。また、三田市と同様に、ネパール人も増えている。西宮市北部に大きな流通センターがあり、食品製造工場などで雇用されている事例がある。在住外国人が集住している地域もあり、今後も増加することが予想される。

図 7 西宮市における国籍別外国人構成比率(単位: %)

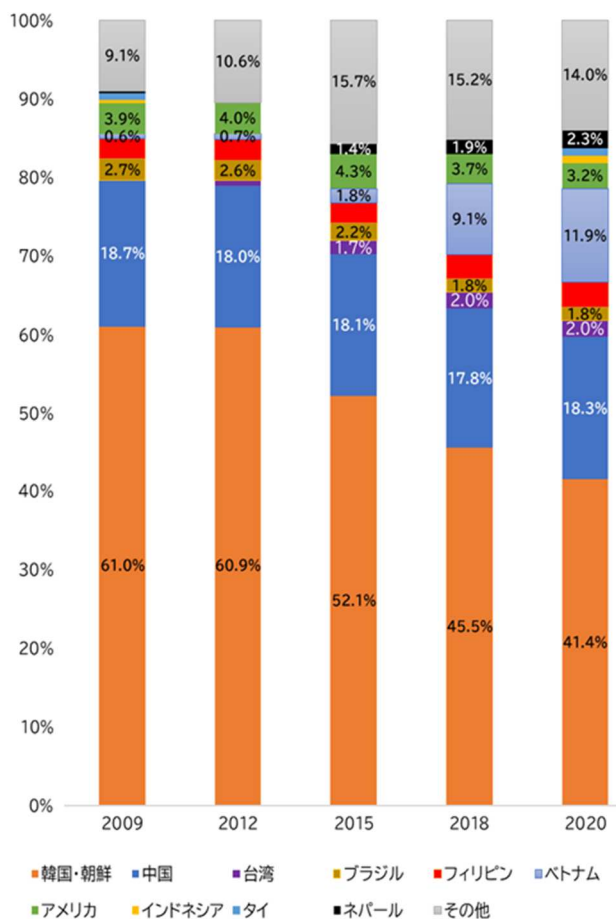
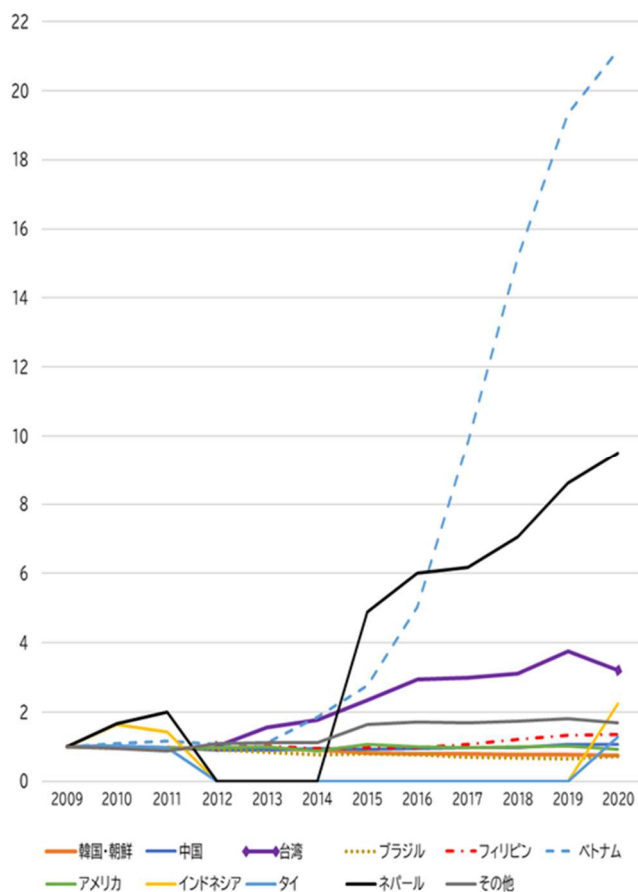


図 8 国籍別在住外国人数の変化率(単位: 倍)
(2016 年の人数を 1 とする)

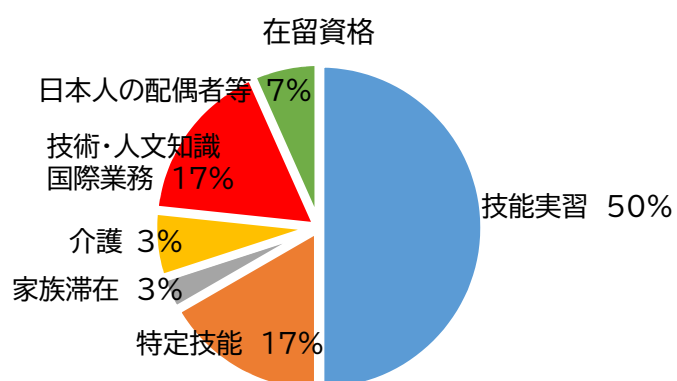
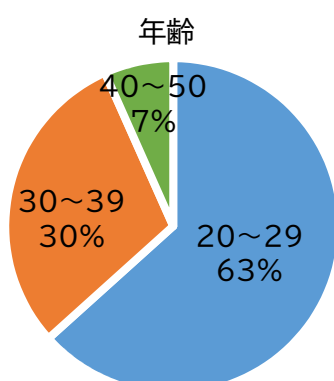
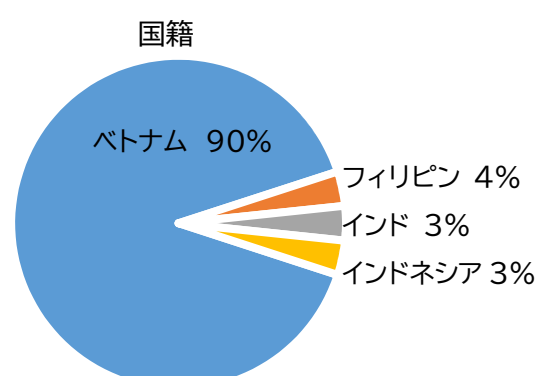
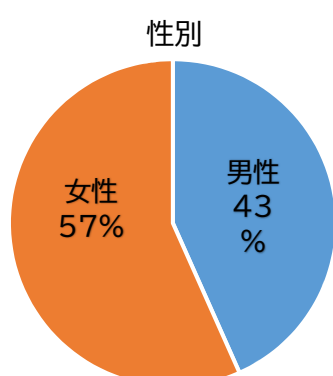


2. 外国人住民を対象とした調査

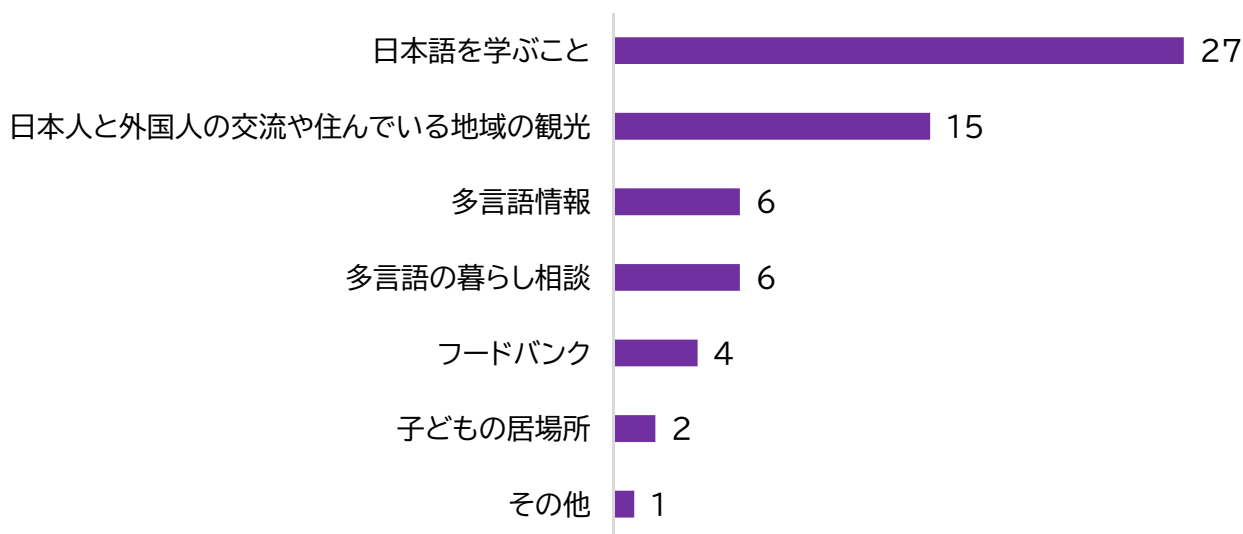
①WEBアンケートの実施

(1) 調査の概要

目的	在住外国人住民の生活上の課題と、特にコロナ禍の困りごとの実態を把握するため
対象	神戸市北神地域、三田市、西宮市北部に暮らす在住外国人
手法	北神日本語教室に通っている学習者およびその知人、および外国人雇用をしている事業所を介して依頼。Google フォームを使い WEB アンケートへの記入。 英語 https://bit.ly/anketen  ベトナム語 https://bit.ly/anketvn 
実施時期	2021年9月1日～11月30日
質問項目	日本で暮らすうえで関心があることや困りごと、新型コロナウイルス感染拡大によって生じた影響について
回答数	30人 ※アンケートの詳細な整理は、pp.22-23 を参照 ・性別： 男性 13 人、女性 17 人 ・国籍別： ベトナム27人、インド 1 人、フィリピン 1 人、インドネシア 1 人、 ・在留資格別： 技能実習 15 人、特定技能 5 人、技術・人文国際・国際業務 5 人 介護 2 人、日本人の配偶者 2 人、家族滞在 1 人



問1：日本に住んで関心がある活動は何ですか？（複数選択可）



「在住外国人が日本で必要としているサービス」について尋ねた。日本に住んで最も関心ある活動は「日本語を学ぶこと」だった（27 人／30 人）。中には、日本語能力試験（JLPT）²で最上級のN1を持った人や、日本人の配偶者等の日本語が上手と思われる人も選んでいる点が興味深い。次に多かったことは、「日本人と外国人の交流や地元の観光」であった。（15 人／30 人）。日本人とコミュニケーションのチャンスがあれば日本語が上達するため、母語が通じない在住外国人にとって日本語を勉強することや、日本語で話せる機会を持つことはとても大切なことである。

次に、①家族の有無 ②ビザのちがい ③職業 ④年齢などの違いから回答の差があるかどうかを見た。

「日本語を学ぶこと」については、差は見られなかった。在住外国人にとって共通の関心といえる。

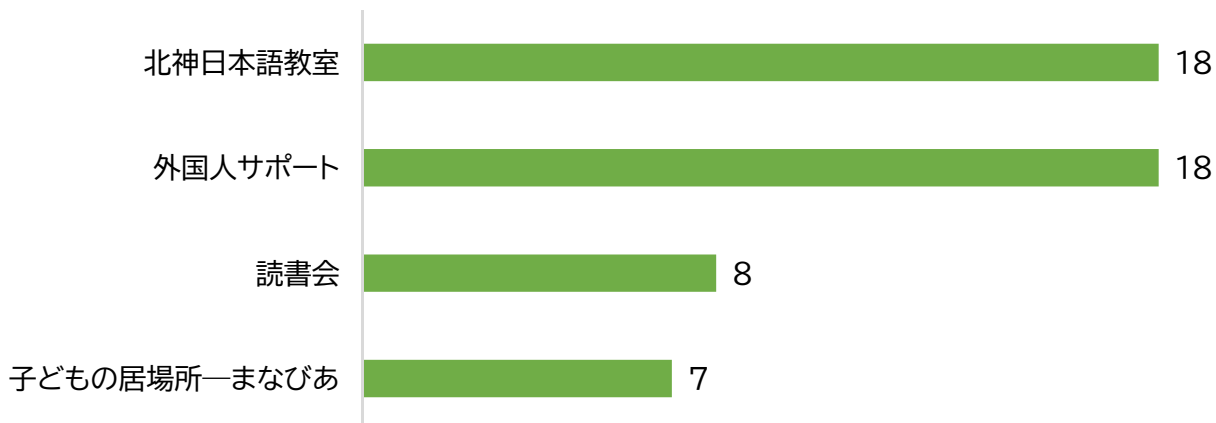
「日本人と外国人の交流や地元の観光」については、日本人の配偶者等や技術・人文知識・国際業務の在留資格を持っている人に関心がある傾向があった。それらの在留資格を持って日本で働いている人は収入が安定しているため、今住んでいる地域について学び、長期的に定住したいという考えている背景があるように思われる。一方で、技能実習と特定技能のビザの人の回答割合は少なかった。給料は最低賃金が担保されているものの大部分は母国に送金しており、金銭的余裕が少ないため関心をもつ余裕がない可能性が考えられる。

「多言語情報」と「多言語の暮らし相談」を選択した人は、ベトナム人が多かった。日本人の配偶者等は日本人パートナーを介して情報を知ることができ、生活相談もできるため、回答が少なかったのではないかと。例えば、ごみ収集のスケジュールや分別方法、母子支援などは母国と日本とでルールが異なる上に、住んでいる市ごとにルールが違うため混乱が起きやすい。相談できる日本人の知り合いがいないために、その地域独自のルールを理解することが困難になっているため、日本語が不自由な外国人が住んでいる地域のルールを理解し、遵守するためには、多言語の情報発信とアクセスのしやすさが必要である。子どもの予防接種や健康診断、子育てなど共通の課題・テーマの情報は行政が多言語に翻訳していることが多い。しかし、地域のイベントや観光地の情報、ボランティア活動等、身近な個人の活動は多言語の情報発信は少ない現状である。地域の見守りを高め孤立を防ぐためには、地域情報の多言語化支援が必要と思われる。

² 日本語を母語としない人の日本語能力を測定する試験として、1984 年に開始。N1～N5の5つのレベルがあり日本語力の測定に加え、就職、昇給・昇格、資格認定への活用などに使われている。<https://www.jlpt.jp/>



問2：「場とつながり研究センター」のどんな活動に興味・関心がありますか？（複数選択可）



「在住外国人が参加したい地域団体の活動」について尋ねた。当団体のつながりづくりの活動のうち、在住外国人がどのようなサービス・活動に関心があるかを尋ねたところ、地域日本語教室の「北神日本語教室」と「外国人生活サポート」に関心があると答えた人が最も多かった（18人／30人）。

技能実習の人はこれら2つのサービスを最も利用したいと回答していた。日本語を勉強することは仕事のスキルを高め、転職を含めた自身の可能性を広げるために重要なことである。技能実習や特定技能のビザで働く在住外国人にとって、日本語力は十分でなく収入が少ないため、北神日本語教室のように低料金で日本語を学ぶ機会があるのは経済的にとても助かるようである。一方で、収入が安定している人、日本語が上手な人、日本人の配偶者等も日本語教室に参加したいと考えているが、「他の外国人に会いたい」、あるいは「職場での日本語以外に人生でもっと日本語を練習する場所を見つけたい」、「日本人ボランティアから日本文化について学びたい」からと彼らの動機は少し異なるように思われる。

子どもがいる外国人は、子どもの居場所活動に関心があるとの回答が多かった。未婚の外国人は、日本語を学び、日本人との交流や観光、旅行などの生活の中での個人的な問題について相談したいと考えている一方で、家族を持つ外国人の関心ごとは、子育て支援や子どもの言語の壁、扶養家族に関わる施策など日本語と家族支援に関する相談をしたいと回答する傾向があった。同時に、日本語が苦手で日本人とコミュニケーションが十分に取れないことで、誰にも相談できない、自分の気持ちを伝えることができないために自分で抱え込んでいるため、中長期的に積み重なって心理的な問題につながるのではないかと危惧している。そのため、生活オリエンテーション、情報交換、生活相談など外国人支援サービスも併せて必要であると考えられる。

なお、技能実習と特定技能の違いなど、在留資格についての詳細は、出入国在留管理庁(Immigration Services Agency of Japan)のホームページに詳しい記載があるので、そちらを参照されたい。

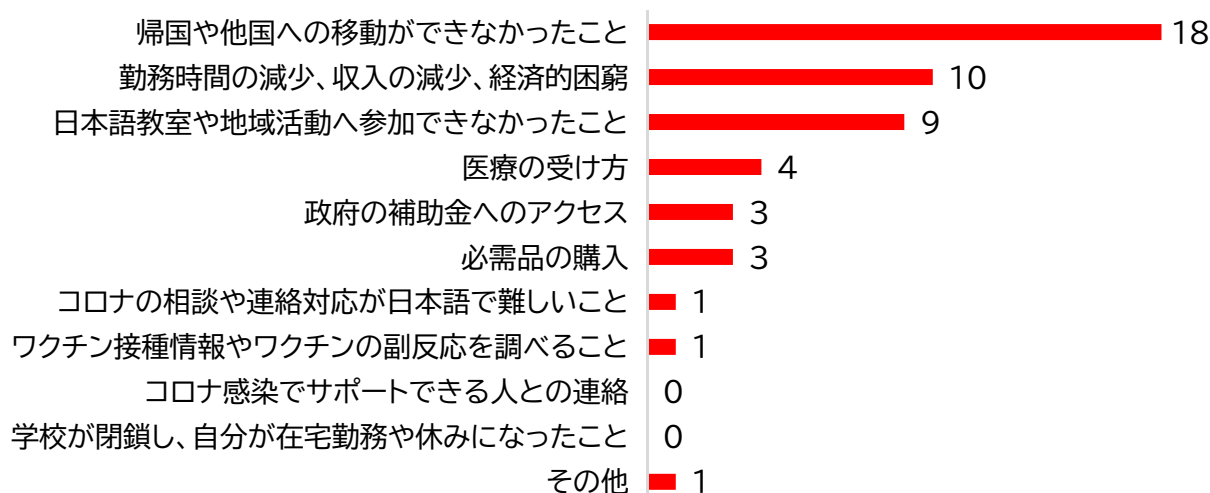
※参考資料：出入国在留管理庁「新たな外国人材の受入れ及び共生社会実現に向けた取組」

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930004251.pdf>

(PDF が開きます)



問3：新型コロナウイルス感染症が始まって(2020年)以降、困りごとがありますか？（複数選択可）



「在住外国人がコロナ拡大期に困ったことや悩んだこと」について尋ねた。最も多く回答があったものは、「帰国や他国への移動ができなかったこと」であった(18人/30人)。毎年、家族に会うために、または旅行するために帰国していたが、コロナのためすべての計画をキャンセルする必要があるがあった。中でも、農業分野で働いている人が多く回答していた点が特徴的であった。

次に回答が多かった困りごとは、「勤務時間の減少、収入の減少、経済的困窮」であり、3分の1が回答した(10人/30人)。働く業種別に回答の傾向が異なり、例えば農業や介護の分野で働く人々は収入の影響はほとんど受けなかった一方で、食品製造業で働いている人々は労働時間や収入が大きく減少するなど、最も影響を受けたようである。

また、「日本語教室や地域活動への参加できない」と回答した人も多く(9人/30人)、特に技能実習の人の回答が多かった。技能実習生は日本語を勉強する必要があるものの金銭的に余裕がほとんどないため、日本語学校などの有料の授業を受けることが難しく、参加費が1回あたり無償～500円で行われる日本語教室に参加することが多い。しかし、日本語教室はボランティアによる運営のため、ボランティア自身の不安への対応のためにクローズせざるを得ないこともあり³、在住外国人にとって日本語をまなび、日本人とつながれる機会が失われてしまったのである。

既婚・未婚によって回答の違いも見られた。未婚者にとっての困りごとは「収入の減少」、「母国への帰国」、「政府の補助金へのアクセス」に困りごとがあると回答した一方で、既婚者は「必需品の購入」や「日本語の授業への参加」、「母国への帰国」、「医療の受け方」に困りごとがあると回答した。

なお、「学校や保育園が閉鎖になったため、自分が在宅勤務や休みになったこと」や、「コロナ感染で自宅隔離の時にサポートができる人(支援者)との連絡」と回答した人はいなかった。これは幸いにもコロナに感染せず実体験していないため回答がなかったことが考えられる。

³ 「北神日本語教室」のように公共施設を使って行われる活動は、公共施設の閉館ルールにも影響を受けた。

②外国人住民のインタビュー調査

(1) 調査の概要

目的	WEB アンケートで得た回答をもとに、当事者の負担感や生活実態をより具体的に理解し、困りごとの実態を明らかにするために実施
対象	神戸市北神地域、三田市、西宮市北部に暮らす在住外国人
手法	WEB アンケートの回答者の中から 17 人を抽出し、個別に依頼。 【インタビュアー】 本田 文代 (場とつながりの研究センタースタッフ) ドウ・シ・ハ・エン (場とつながりの研究センタースタッフ:ベトナム人) *使用言語: ベトナム語、英語
実施時期	2021年9月 16 日～11 月 17 日
質問項目	家族構成や来日年月、暮らしに関する困りごと、新型コロナウイルスの影響について
回答数	17人 ・性別: 男性 7 人、女性 10 人 ・国籍別: ベトナム 15 人、フィリピン 1 人、インドネシア 1 人、 ・在留資格別: 技能実習 6 人、特定技能 2 人、技術・人文国際・国際業務 2 人 介護 2 人、日本人の配偶者 2 人、家族滞在 3 人

(2) インタビューの内容

今回、WEB アンケートに回答いただいた方で、地域で外国人を雇用する事業所や北神日本語教室に参加している学習者の中から 17 人にインタビューを実施した。紙面に限りがあるため、本冊子では、そのうち 6 人について報告する。

6人の選択にあたっては、性別・家族構成・国籍・在留資格・在住年数など属性に偏りがならないように配慮した。また、同じ事業所で働く外国人は似た回答をしている場合もあるため、1 事業所から 1 人とした。

掲載していない人を含む全 17 人のインタビュー調査から、私たちが考えた分析を p.17 に記載している。また、日本語運用能力についても、日本語能力検定では上級の力量をもっている、実際の生活場面で日本語を自由に使いこなせていない人も多くおり、別の尺度として考える必要があることもインタビューで感じたことを付け加えたい。

① Aさん（30代男性、既婚） 【インタビュー実施：2021年11月】

国籍	ベトナム	来日年	2012年
在留資格	技術・人文知識・国際業務 (妻：家族滞在)	家族構成	妻(ベトナム人)と子ども2人と同居 (姉1歳半、弟1ヶ月)
職業	エンジニア(勤続年数:5年)	日本語能力	日常会話が出来、漢字も理解。 職場での会話、通訳ができる。

●生活の概要

Aさんはエンジニアの仕事をしている。妻は技能実習生として来日し、食品業界の会社で働いていた。結婚後、有馬温泉のホテルにてアルバイトをした。長女の出産に伴い、退職。その後、子育てのために家にいて、2年間仕事をしていない。子どもを保育園に預けることができないでいる。

●生活での困りごと

- 2人目の子が生まれたが、子育てを助けてくれる人がいない。育児のためAさんは1ヶ月程度休職。下の子は夜よく寝ないので妻も寝られず、妻の力が弱くなり、上の子の世話をすることができない状態である。2022年4月には子ども2人とも保育園に入れたと考えている。家から最も近い園は徒歩10分のところにあるが、保育園・幼稚園をどうやって選ぶのかがわからない。
- Aさんは車で30分かけて通勤している。約9年日本に住んでいるが、職場ではベトナム人実習生のサポートを担っているため、日本語を多く使う環境にない。コミュニケーションは不自由なくできるが、書類に書かれている意味を理解できていない。妻の子育て負担を減らすためには子どもを保育園に預ける必要があり、そのためにも妻には以前の仕事に戻ってもらいたいと考えている。妻は日本語が不自由なので、生活の困りごとや子育ての問題など、Aさんの負担が大きくなっている。

●コロナでの困りごと

- 妻は車を運転できず、子どもが生まれたことも重なったため、Aさんが遅くまで働いていると必要な買い物に行くことが難しかった。
- ベトナムから両親が来れないので子どもの世話が大変だった。Aさんが休職中は上の子の世話と家事をできたが、Aさんの復職後、妻の健康状況が完全に回復しておらず、心配している。

●日本語を勉強することについて

- 妻は日本語が不自由なので日本語クラスに参加したいが、子どもがまだ小さいことや、公共交通機関をうまく利用できないので通うことができない。子どもが生後6ヶ月になれば日本語教室に参加したいと希望している。Aさんも日本語の勉強をしたいが、遅くまで仕事をしていて時間的に難しい。

インタビューによる考察

Aさんの妻の支援が必要である。例えば、保育園に子どもを通わせるときに必要な情報を伝えることや、一人でバスに乗れるような方法を知ることが、本人の自立支援につながるものと考えている。

② Bさん（20代女性・既婚） 【インタビュー実施：2021年11月】

国籍	ベトナム	来日年	2019年
在留資格	技能実習	家族構成	母国にベトナム人の夫と子ども1人
職業	食品製造(勤続年数:1年)	日本語能力	日常会話ができ、漢字も少し理解。

●生活の概要

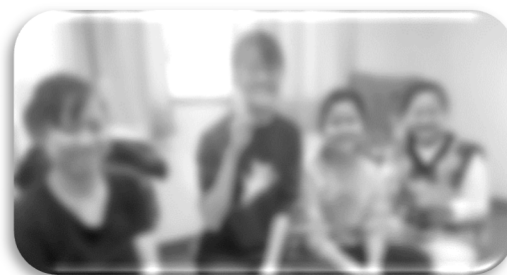
食品製造会社で加工品の製造に従事。会社の待遇は良いと感じている。職場から近くに会社が住居を準備し、家賃も月1.5万円＋水道光熱費実費と安い。時給は地域の最低賃金であるが、フルタイムで働くことができる。ベトナムでの日本語学習と試験、ビザの手続きにかかる費用など仲介会社に約100万円支払うため、家族などから借入して準備した。現在、給料の約80%を仕送りし、返済に充てている。

●生活での困りごと

- 日本語がうまくないので、病気のと看、買い物に行くとき、心理的な困りごとがあったときはベトナム人の同僚と話し合っ、解消している。日本人の同僚とは、休憩時間が異なるなど交流する機会がなく、あまり話ができない。
- 毎月1回、本人と会社の担当者、監理団体の担当者と話し合う機会はあるが、自分の意見や気持ちを正直にいうと雇用関係に影響が出ると思っているため、言えていない。

●コロナでの困りごと

- 労働時間が減少し、収入も減った。
- 夫と子どもが母国にいるが、コロナで帰れず、長い間会えていないので思い出すことがよくある。
- マスクやトイレトペーパーなどが不足している中で、どこで手に入るのかわからなかった。
- 北神日本語教室には積極的に参加していたが、コロナ禍の閉鎖で参加できなくなってしまった。
- 会社の人のサポートを得て、10万円の特別定額給付金を得ることができた。



●日本語を勉強することについて

- 将来よりよい仕事に就くために、日本語をもっと勉強したい。しかし、日本人とコミュニケーションの機会が少ない職場環境のため、周りの日本人の友達がおらず、日本語を使うことがほとんどない。
- 日本語教室に参加したいが、自転車しかないので、天気が悪かったり仕事で疲れたりすると参加できないことが多かった。仕事に関する日本語より生活日本語のほうを勉強したい。

インタビューによる考察

本人は日本に長い期間働きたい、住みたいと希望している。仕事をしながら日本語も頑張って勉強している。将来的に日本で良い仕事と生活を送るために、本人は日本語能力と専門知識のレベルを向上させることを目標にしているようだ。日本人とコミュニケーションできる機会を多く作る必要がある。

③ Cさん（20代女性・未婚）【インタビュー実施：2021年11月】

国籍	ベトナム	来日年	2018年
在留資格	介護	家族構成	本人のみ
職業	介護福祉士(勤続年数:1年)	日本語能力	日常会話が出来、漢字も理解。 職場での専門用語も理解。

●生活の概要

高校を卒業後、進路が決まっていなかった時にテレビで日本のことを知り、留学したいと思い立った。母が急病になり世話が大変だった経験から介護を勉強したいと思い、勉強した。来日後は、日本語学校と介護専門学校で勉強しながら、アルバイトをして生計を立て、病院で看護補助の仕事をしたこともある。病院のスタッフは優しく接してくれてありがたかった。専門学校の学費は約200万円だったが、専門学校の法人から奨学金をもらって勉強し、現在の事業所(別法人)に入職後に、月々の給料から返済をしている。

●生活での困りごと

- 体が少し弱いため、天気が変わると病気になりやすい。日本語はわかるので、生活の困りごとは少ないと思っている。
- 電車で最寄り駅まで行き、駅から自転車で15分ぐらいかけて通勤しているため、冬は大変。電車がいないため早番はないが、夜勤が月4～5回ある。体調不良のときは夜勤が大変である。

●コロナでの困りごと

- ベトナムへ帰ることができない。
- コロナワクチンを注射して、副反応があった。

●日本語を勉強することについて

- 現在、出勤時間が増えており、夜勤もあるので家で日本語を勉強している。日本語学習のうち「聴解(リスニング)」が一番難しい。わからない言葉は周りの人を聞き、辞書をひいて勉強している。
- 仕事をしながら、利用者とスタッフとコミュニケーションを取っており、日本語が上達しているもののさらなる日本語レベルがアップを望んでいる。時間があれば、日本語の医学資料を読んでいる。



インタビューによる考察

職場で分からないことがあれば積極的に同僚に聞くなど、仕事に対する真摯な姿勢がうかがえた。一方で、辛いことなどがあったときに母語で話せる人が限られるため、メンタルサポートの必要性を感じる。同胞の人と知り合う機会も少ないようなので、巡り合える場の設定をするとともに、参加を呼び掛けていきたい。

④ Dさん（20代女性・既婚） 【インタビュー実施：2021年9月】

国籍	ベトナム	来日年	2017年
在留資格	家族滞在	家族構成	ベトナム人の夫
職業	主婦	日本語能力	日常会話が出来、漢字も理解。 通訳、翻訳ができる。

●生活の概要

技能実習生として来日。結婚後、在留資格を家族滞在に変更し、西宮市北部に引っ越し。工場で職を得て働いていた。他の日本人スタッフと話すことが楽しかった。会社のバス送迎があり通勤は楽であった。その後妊娠し、つわりがひどかったので退職。

●生活での困りごと

- 日本語がわかるため、生活上の問題がほとんどない。初めての妊娠のため、食べられるものが減った、食べる量も少なくなった、夜寝られないことが増えた、などの変化にとまどっている。市役所職員から妊娠期支援の制度情報を教えてもらった。現在仕事をしておらず、日常生活がつまらなさと感じている。
- 最初、家の近いクリニックに診察を受けたが、外国人の診察経験が少ないので、大きい病院に転院することになった。出産に関していろいろ知りたいが、医師からの情報でないと心配に感じる。毎週検査したいが、日本ではできない点も不安に思っている。
- 今住んでいる部屋が狭いので、出産後の生活が心配。



●コロナでの困りごと

- 技能実習生の期間が終わったらベトナムに帰るつもりが、コロナで帰ることができなかった。コロナワクチン接種を2回した後に、出産のためベトナムへ一時的に帰りたくと考えているものの、状況によって日本に戻るかベトナムにいいのか考えている。

●日本語を勉強することについて

- 日本語能力試験は N1 を取得。技能実習生のときに日本語教室に参加したり、高齢者施設でボランティアをしたり、さまざまな活動に参加していたため、日本人の先生や友達がたくさんいる。日本人と多くコミュニケーションしたおかげで日本語が上手になった。
- 日本語の勉強し、日本で多くの仕事をする中で、キャリアを豊かにしたい。日本に再来日したら家の近くの日本語教室に参加したい。ベトナムで暮らすなら日本企業で働きたいと考えている。

インタビューによる考察

彼女は日本語がとても上手で、頭も良く謙虚であった。初めての妊娠で、多くの困りごとがあるように感じた。母国へ帰って出産し、すぐ日本に戻ることを望んでいるため、日本に戻ってきたら、行政手続きや子育てにかかる情報の伝達、保険、ビザの手続き等のサポートが必要に思われる。

⑤ Eさん（40代女性・既婚） 【インタビュー実施：2021年10月】

国籍	インドネシア	来日年	2005 年
在留資格	日本人の配偶者等	家族構成	日本人の夫と子ども1人
職業	パート	日本語能力	日常会話が出来、漢字も理解。 通訳、翻訳ができる。

●生活の概要

16年前、日本人の夫と結婚し 1 週間後に来日、当初は英語で会話していた。来日時に話せる日本語は「おやすみなさい」と「ちょうだい」だけだった。夫の親とはボディーランゲージでコミュニケーションした。優しい日本人が周りに多くいる。現在、週3回、在宅勤務で仕事をしていることに加え、時々通訳をするためにクライアントの会社に出向くことがある。子どもを保育園に預けているので、安心して仕事に臨めている。

●生活での困りごと

- 困りごとがあれば、夫やインドネシア人の友達 2 人と話し相談しているが、いつも周りの人から助けをもらうことができていた。インドネシアにいる家族にはあまり相談はしていない。
- 娘が 2 歳まで言葉を発しないので心配したが、8 月から保育園に行くようになって、声が良く出るようになり、長い文章も話せるようになった。家で娘とだけいる時は、インドネシア語で話をし、英語でも時々話をする。

●コロナでの困りごと

- 娘とインドネシアに行くことができなかった。
- トイレットペーパーが不足したとき、購入できる店の情報などが全く分からなかった。

●日本語を勉強することについて

- 夫から日本語を教えてもらい勉強している。さまざまなことわざも学び、日本語が上達した。仕事関係の日本語を少しずつ勉強している。

インタビューによる考察

Eさんは優しく頭が良い人であった。インタビュー自身も双子の子どもの母親なので、出産と子育てに関して多くの共通点がある。多言語環境での育児に関する情報や知識、経験、日本文化についての情報交換や共有することができる「場」を作り出すことが、これから必要ではないかと考えられる。

⑥ Fさん（40代男性・既婚） 【インタビュー実施：2021年10月】

国籍	フィリピン	来日年	2019 年
在留資格	日本人の配偶者等	家族構成	日本人の妻と子ども2人
職業	アルバイト(勤続年数:2 年)	日本語能力	日常会話が出来、漢字も少し理解。

●生活の概要

2019年10月就労支援セミナーに参加して面接を受けたことがきっかけで、2つ掛け持ちして働いている。(1)土曜日と日曜日の午後5時から有馬温泉のホテルで部屋の掃除と食器洗いの仕事をしている。(2)週3回、介護事業所にて、男性の入浴介助や、高齢者の生活サポート、マッサージ、利用者に英語を教える仕事をしている。他に、両親が農家であり、フィリピンで16年間 NGO を通じて農業従事経験があることを活かし、三田市の農家で、トラクターで庭を耕し、草刈り機での除草、種蒔き、収穫のボランティアをしている。「農家から笑顔を得る」という目標を掲げ活動しており、ボランティア活動にやりがいを感じている。

●生活での困りごと

- 日本語でのコミュニケーション、特に漢字には課題がある。子どもには自分がわかる漢字しか教えることができず、わからないものには苦労している。
- 仕事でわからないことは会社の同僚に、子どものことは他の保護者に聞いて解決しようとしている。

●コロナでの困りごと

- 有馬温泉の仕事が減少した。
- コロナワクチンの手紙が日本語だったが、妻が日本人なので予約の手続きをすることができた。モデルナの副反応に関する多言語情報が少なかった。
- 日本に来てすぐにフィリピンにいる母が病気になり、2020年の3月に亡くなった。数日間だけでもフィリピンに帰りたと思っていたが、コロナのために帰国できず、母の世話をできなかったことに無力感を感じている。

●日本語を勉強することについて

- 毎晩1時間程度、オンラインでの日本語教室に参加している。
- YouTube でのシャドーイングでの自習や、テキストを使って勉強している。

インタビューによる考察

Fさんは大変真面目で優しい性格である。パートナーと協力しあいながら、子育てしているようだ。日本語習得を希望しているが、勉強の時間を作るのも難しいようである。仕事の一環として地域日本語教室に通えるようにできないか、事業所に提案してみたい。

(2) 結果から見てきたこと

①生活サポート → 情報拠点と事業所と地域が連携した支援体制づくりが必要

- 行政が提供する情報や支援制度に加えて、フードバンクや生活知識など支援情報に関心がある。
- 初めて日本に来る技能実習生は、ごみの分別や収集のスケジュール、買い物できる場所など、日本で暮らす基本的なルールは、監理団体から一通り教えてもらっている。しかし、実際に住む地域の情報は監理団体から教えてもらっていないケースが多く、雇用された事業所任せになっている。
- 例えば、地域のイベントに参加したい、母国の伝統的な活動をやりたい、日本の文化を知りたいなど本人が「地域と関わりたい」と思っていても、それをコーディネートするしくみがなく、本人が自力で探すしかない。また、コロナ禍で地域日本語教室が閉鎖になったときに地域情報や生活情報を聞くこともできず、日用雑貨品(マスク、トイレットペーパー等)を購入できる店の情報が得られずに困っていた様子がかがえた。
- 経済的に余裕がなく、移動手段も限られているために自ら必要な情報を得に行くのは大変である。外国人を雇用する事業所と NPO との間で職場以外の生活支援を連携・協力することで、外国人が直面する困難を支えていくことができるのではないだろうか。

②日本語学習のサポート → それぞれが尊重される「居場所」としての日本語教室が必要

- 仕事と生活に役立つ日本語能力を向上させることは必要だと認識しており、誰もが日本語を学び、できるだけ日本語を練習したいと思っていた。一方で、日本語を学び使えるような職場環境となっていない事業所もある。例えば、ホテルの掃除や工場の仕事は日本語をあまり使わずで、日本人の同僚とコミュニケーションをとることなく完結している事業所もあった。
 - ◆ 日本語が上手になると仕事の効率・効果が高まるので、企業の管理者は外国人従業員が日本語を勉強することための支援をもっとする必要があるのではないか。
- 多くの技能実習生が、経済的な負担を感じながら借入金返済のために給料の大部分を母国に送金している。そして、仕事の内容を理解できるよう日本語力も向上したいという思いがある一方で、日本語学校などは学費が高くて通うことができない状況にある。そのため、経済的な負担が少ない「地域日本語教室」が日本語を学べる場としてニーズが高いと感じ取ることができた。
- 地域日本語教室は、日本語を学ぶ場としてだけでなく、「自分の気持ちを言え、存在を認めてもらえる場」として拠り所になっている、との話が多くから聞かれた。

③家族と子育てのサポート → 外国人ママの孤立への対策が急務

- 育児サービスや健康診断・治療、子どもの関する施策などを母親は興味を持っているが、自分で探すのはとても難しい。
- 孤立している在住外国人の母親が存在することを把握した。日本語が十分でないために地域社会とのつながりもなく、緊急事態が発生した時に S O S が発することができない状況に陥ることも考えられる。そのために、在住外国人母親のための生活日本語支援体制を作り、地域の日本人住民とつながりを生み出す取り組みを行うことが必要である。

③外国人を雇用する事業所へのインタビュー調査

(1) 調査の概要

目的	在住外国人を雇用することへの意義と可能性を探り、今後増えるであろう外国人雇用を考える事業者にとってより良い職場環境を整えるための方策を探ることを目的に実施。
対象	神戸市北神地域、三田市、西宮市北部にて外国人を雇用している事業所
手法	同圏域の事業所が登録する「三田市商工会」が会員 1150 事業所(外国人雇用を行っていない事業所を含む)へ送付するニュースレター2021 年9月号に下記チラシを同封。既に雇用をしており関心があると問い合わせのあった事業所にインタビューを依頼した。
実施時期	2021年9月10日～12月28日
質問項目	雇用に至った経緯と雇用後の様子、他の職員との関係性構築や意思疎通の工夫、生活支援の相談対応、事業所における日本語支援について
回答数	5事業所 ※各事業所からの回答(要約)は、p.24～26 参照 ・地域別: 三田市 1 事業所 神戸市北神地域 4 事業所 ・分野別: 介護 3 事業所 農業 1 事業所 食品製造業 1 事業所

三田市、北神地域の事業者様(経営者様、総務担当の方)へ

外国人雇用の「こまった」は、 場とつながりの研究センターへ お声がけください。

相談費用 無料

こんなお悩みを抱えていませんか?

- 従業員同士のコミュニケーションがうまくいかない
- 外国人を受け入れるので、かわり方について学びたい
- 日本語を支援する環境を作りたい

ご相談をお寄せし、下記のような提案・お手伝いをしています。

- コミュニケーションサポート
- 従業員向け研修
- 企業内日本語教室の設置サポート

サポートスタッフ紹介

外国人支援に長年携わるスタッフと通訳スタッフが在籍しています。事業者へ伺い、外国人従業員へのアドバイスや雇用主のお考えを伝えるお手伝いを行います。

ほんだ
場とつながりの研究センター 国際事業部長、北神地域協定コーディネーター、在住外国人支援に長年携わっています。

エン
ベトナム人の間で事業所スタッフ、立命館大学で通訳授業を専攻。ベトナム語、英語、日本語を話せます。

サポートしている地域

三田市内や北神地域にある事業所
※事業所に伺いお話を聞きます。

NPO法人 場とつながりの研究センター 〒669-1633 三田市三田町29-14 (三田本町通り駅西側内)
☎079-553-2521 ☎079-553-2522 ✉kokusai@batotsunagari.net 担当: 本田 文代
受付時間: 10:00～17:00 (日・月休) / できる限り FAX・メールでお返事いたします。

場とつながりの研究センターについて

多様な地域課題の解決のために活動している人や団体に、これらの人が集う場やつながりを作りたいこと、並びにそれらの活動を支援することを目的として、想い出る種族社会づくりを志すことを目的としています。

※本事業は、兵庫県等活用型新型コロナウイルス対応緊急支援として(公財)徳島県本財団が助成事業により実施しています。

(2) 調査から見たこと

①外国人雇用をすすめる動機 → 地域に担い手がない

- 少子高齢化に伴う労働人口の減少、かつ、地域内に日本人の若者が減っている社会環境を踏まえ、現在の職員の年齢構成と照らし合わせると外国人雇用は今後増えていかざるを得ないと考えている事業所が、まず外国人雇用に取り組み始めているようである。
- 実際雇用してみたところの感想を尋ねたところ、「期待していた以上によく働いている」とすべての事業所が回答した。中には、「外国人を雇用に対して不安があったが、払拭されるくらい良く働いてくれている」と回答した事業所もあった。
- 近い将来、外国人雇用が本格的になった際に、彼らを指導できる人材を今から確保しておきたいという思いがあると感じた。経験・キャリアを積み重ね、いずれ責任ある仕事についてもらいたいと期待している回答が多くあった。
- 「日本語習得にかかる費用を負担している」事業所もある一方で、外国人個人に任せているところもあった。中には、「事業所として必要性を認識していない」ところもあった。

②外国人労働者と日本人スタッフとの関係性構築 → 理解できる言葉での会話が重要

- 外国人労働者を雇用するにあたり、日本人従業員の意識を変える必要があると回答した事業所がほとんどであった。
- 今回のインタビュー調査に応じた事業所は、いずれも日本人従業員との関係性構築も良好で、日本人従業員がやさしく接しているとのことであった。その背景を探ると、「上司からの指示が行き届いている」ことと、「わかりやすい、やさしい日本語で説明している」ことがポイントとしてあげられるように感じた。

③外国人従業員の労働・生活環境の改善に向けての考え → 医療現場での情報保障を

- 通院時の通訳は、監理団体から通訳の派遣があり、または職場の職員が同行して対応している。急病で診察した際も、病院側が翻訳機を用意する対応があったとのことである（＊病院における翻訳機の導入状況については未調査）。
- 外国人は自分自身の健康状態を日本語で説明することは難しい。そのため、母語で説明できる工夫が必要である。例えば、「多言語問診票」が全国的にも導入されており、本人が自身の体調を明確に説明できるしくみづくりを、医師会や医療機関、事業所などに周知していくことが必要でないか。

【資料2】 WEB アンケート調査結果の概要

WEB アンケートの回答者数の 30 を基数とし、それぞれ回答した割合を%で表記している。

		国籍								配偶者の有無					
問1：日本に住んで関心がある活動は何ですか？（複数選択可）		ベトナム 27/30		フィリピン 1/30		インド 1/30		インドネシア 1/30		家族あり 12/30		家族なし 18/30		介護 2/30	
日本語を学ぶこと	27	25	93%	1	100%	1	100%			11	92%	16	89%	2	100%
日本人と外国人の交流や住んでいる地域の観光	15	13	48%			1	100%	1	100%	7	58%	8	44%		
多言語情報	6	6	22%							2	17%	4	22%	1	50%
多言語の暮らし相談	6	6	22%							1	8%	5	28%	2	100%
フードバンク	4	4	15%							1	8%	3	17%	1	50%
子どもの居場所	2	1	4%	1	100%					1	8%	1	6%		
その他	1	1	4%									1	6%		

		国籍								配偶者の有無					
問2：「場とつながり研究センター」の活動の中で、どんな活動に興味がありますか？（複数選択可）		ベトナム 27/30		フィリピン 1/30		インド 1/30		インドネシア 1/30		家族あり 12/30		家族なし 18/30		介護 2/30	
北神日本語教室	18	17	63%	1	100%					8	67%	10	56%		
外国人サポート	18	17	63%	1	100%					9	75%	9	50%	2	100%
読書会	8	8	30%							2	17%	6	33%		
子どもの居場所—まなびあ	7	4	15%	1	100%	1	100%	1	100%	5	42%	2	11%		

		国籍								配偶者の有無					
問3：新型コロナウイルス感染症が始まってから（2020年）どのような困りごとがありましたか？（複数選択可）		ベトナム 27/30		フィリピン 1/30		インド 1/30		インドネシア 1/30		家族あり 12/30		家族なし 18/30		介護 2/30	
帰国や他国への移動ができなかったこと	18	16	59%	1	100%	1	100%			10	83%	8	44%	2	100%
勤務時間の減少、収入の減少、経済的困窮	10	9	33%	1	100%					3	25%	7	39%		
日本語教室や地域活動へ参加できなかったこと	9	8	30%	1	100%					6	50%	3	17%		
医療の受け方	4	3	11%			1	100%			3	25%	1	6%		
政府の補助金へのアクセス	3	3	11%							1	8%	2	11%		
必需品の購入	3	2	7%			1	100%			2	17%	1	6%		
コロナの相談や連絡対応が日本語で難しいこと	1	1	4%							1	8%				
ワクチン接種情報やワクチンの副反応を調べること	1	1	4%							1	8%				
コロナ感染で自宅隔離の時にサポートできる人との連絡	0														
学校が閉鎖し、自分が在宅勤務や休みになったこと	0														
その他	1							1	100%	1	8%				

在留資格										会社の分野										年齢					
家族滞在 1/30		特定技能 5/30		技能実習 15/30		日本人の配 偶者等 2/30		技術・人文 知識・国際 業務 5/30		介護 7/30		エンジニア 5/30		農業 8/30		食品製造業 7/30		その他 2/30		20～29 19/30		30～39 9/30		40～50 2/30	
1	100%	5	100%	13	87%	1	50%	5	100%	7	100%	5	100%	7	88%	6	86%	2	100%	17	89%	9	100%	1	50%
1	100%	2	40%	7	47%	1	50%	4	80%	2	29%	4	80%	4	50%	3	43%	2	100%	9	47%	5	56%	1	50%
		1	20%	2	13%			2	40%	1	14%	2	40%	1	13%	2	29%			4	21%	2	22%		
				2	13%			2	40%	3	43%	2	40%	1	13%					4	21%	2	22%		
				3	20%					1	14%			1	13%	2	29%			4	21%				
				1	7%	1	50%			1	14%			1	13%					1	5%			1	50%
				1	7%					1	14%									1	5%				

在留資格										会社の分野										年齢					
家族滞在 1/30		特定技能 5/30		技能実習 15/30		日本人の配 偶者等 2/30		技術・人文 知識・国際 業務 5/30		介護 7/30		エンジニア 5/30		農業 8/30		食品製造業 7/30		その他 2/30		20～29 19/30		30～39 9/30		40～50 2/30	
1	100%	4	80%	8	53%	1	50%	4	80%	4	57%	4	80%	5	63%	3	43%	2	100%	11	58%	6	67%	1	50%
1	100%	2	40%	9	60%	1	50%	3	60%	4	57%	3	60%	6	75%	4	57%	1	50%	11	58%	6	67%	1	50%
		2	40%	4	27%			2	40%	1	14%	2	40%	1	13%	4	57%			6	32%	2	22%		
				2	13%	2	100%	3	60%	1	14%	3	60%	1	13%	1	14%	1	50%	3	16%	2	22%	2	100%

在留資格										会社の分野										年齢					
家族滞在 1/30		特定技能 5/30		技能実習 15/30		日本人の配 偶者等 2/30		技術・人文 知識・国際 業務 5/30		介護 7/30		エンジニア 5/30		農業 8/30		食品製造業 7/30		その他 2/30		20～29 19/30		30～39 9/30		40～50 2/30	
1	100%	4	80%	6	40%	1	50%	4	80%	3	43%	4	80%	8	100%	2	29%	1	50%	10	53%	7	78%	1	50%
1	100%	3	60%	4	27%	1	50%	1	20%	1	14%	1	20%			7	100%	1	50%	8	42%	1	11%	1	50%
1	100%	1	20%	4	27%	1	50%	2	40%	4	57%	2	40%	1	13%	1	14%	1	50%	5	26%	3	33%	1	50%
		1	20%	1	7%			2	40%			2	40%	1	13%	1	14%			1	5%	3	33%		
		2	40%	1	7%									2	25%	1	14%			2	11%	1	11%		
				1	7%			2	40%			2	40%			1	14%			1	5%	2	22%		
		1	20%											1	13%							1	11%		
								1	20%			1	20%									1	11%		
						1	50%											1	50%					1	50%

【資料3】 外国人雇用企業へのヒアリング調査結果

	A 事業所	B 事業所	C 事業所	D 事業所	E 事業所
分野	介護	介護	食品製造業	介護	農業
人数	4人	1人	10人	2人	8人
国籍	ベトナム	フィリピン	ベトナム	ベトナム	ベトナム
雇用開始年月	2021年3月	2021年1月	2019年3月	2020年10月	2015年
雇用の経緯	監理団体が介護分野の実習生を受け入れるにあたり打診があった。	某団体の外国人就労支援セミナーに参加し、面接をしたこと。事業所として今後も外国人雇用を考えている中で将来に外国人材のリーダーになってもらいたいという思いも込めて採用。	日本人求人を出すも人材が集まらない。外国人雇用している事業所から外国人が良く働いてくれるとの声を聴き検討し雇用に至った。	現在職員数で困っていないが、職員の年齢構成がいびつ。労働人口不足を鑑み介護人材のことを考えていた時に、介護専門学校の実習生を受け入れ非常に優秀であったので採用に至る。	監理団体から外国人が良く働いてくれるということを聞き、面接をした。
実際雇用してみた様子	当初思っていた以上に働いてくれる。施設の特徴から男性を雇用したがとても良かった。好青年で真面目、素直なところが大変良い。	人柄的にも申し分なく、事業所にとってプラスになっている。今となっては「大切な存在」の従業員。大変真面目に勤務してくれている。 今までに他3名の外国人雇用実績あり。	働く意欲が高い。仕事熱心でやる気を感じる。昔の日本人のように勤勉で真面目にコツコツ働いている。事業所としても満足度が高い。	期待以上に働いている。10年後には主任を任せられるだけの能力があるのを感じる。夜勤も半年でできるようになった。	受け入れて5年が経ち、外国人実習生をどのような立ち位置で受け入れるか再構築したいと思っている。 受け入れは会社の姿勢次第で変わる。外国人単純労働者と考えのではなく、事業所にとって大切な存在であるということを日本人従業員、外国人従業員に伝えていくことも大切だ。

他の職員との 関係や 意思疎通	関係良好。わからないことがあれば自ら聞いてくる。仕事内容で分からないことがあれば内容を理解している外国人が通訳している。彼らの存在が重要に感じる。	関係良好。入浴介助やリラクゼーションを担当。他の職員や利用者さんとのコミュニケーションも取れている。外国人従業員がいるだけで場の雰囲気が良くなるだけでなく、利用者や他の職員も勤務日を待ちわびているような状況がある。	外国人従業員が担当する部門の上司もやさしく接し、仕事も丁寧に教えている様子。ただ、パート勤務の日本人従業員は勤務時間制約があるので外国人従業員と交流ができていない様子が見受けられる。	関係良好。記録作成のための翻訳機購入も打診したが本人たちが断った。専門用語もよく理解している。	関係は非常に良い。日本語でのコミュニケーションも深めている。
生活支援の相 談対応	母国の食材購入について困ったようで聞いてきた。あとはプライベートで運動をしたい、釣りで鯉が釣りたい(料理に使用したい)との要望があった。ゴミ出し方は事業所で教えた。	今は家庭の事情で短時間勤務希望の旨、申し出があった。そのほかは特にない。	来日当初、ごみステーションと分別についてレクチャー。従業員が入院、手術をしたがコロナ禍で面会ができず心細い思いをさせてしまった。病院に行くときは管理組合の通訳が同行してくれたが、急な診察の時も病院が翻訳機を使うなど対応してくださっている。	病院は日本人職員が付き添っていくようにしている。外国人職員からは自動車免許を取得したいとの要望を聞いている。	生活上では監理団体の研修で学んでいるので特に困ったことはなかったが農作業が炎天下や寒冷期に多いので適応するのに非常に苦労した様子。また農作業をしていると近くにトイレがないことが多く困っていることが多々あった。必要な情報は提供していくべきとの考えもある。
日本語支援に ついて	地域日本語教室に全員参加(参加費負担:事業所)教室での交流イベントがあれば参加できるよう事業所で休日の調整可能。	過去に地域日本語教室に参加。現在は独自勉強	地域日本語教室に一部参加(参加費負担:個人)	独自勉強	独自勉強。コミュニケーションを深めたい外国人は頑張っている。教室に通うにも車が必要であるし、その送迎を時間外に日本人従業員が行うのが難しいのが現状。

コロナ禍において事業所として対応を苦慮したこと	政府からマスクやアルコールの配布はあったが、底をつき物品の確保に苦慮した。	政府からマスクやアルコールの配布はあったが、底をつき物品の確保に苦慮した。	マスク、アルコール物品の確保に苦慮した。	政府からマスクやアルコールの配布はあったが、底をつき物品の確保に苦慮した。	もともと本人たちの母国文化マスクが浸透していた。マスクは事業所から配布したが購入に苦慮した。
その他(備考)	監理団体への指導料等の経費がかなり掛かる。しかし、その分を取り戻すくらい働いてくれている。日本語教室で使用する教材などあれば事業所で購入します。	介護利用をされる方も80歳代が多く戦前の生まれで当時、子どもの方が多い。実際に戦地に行って戦うことの経験がないことも関係があるのか、外国人への悪いイメージを感じない。	外国人を雇用すると労働基準法とビザの縛りがあるので実際にその作業をさせてよいか迷うことがある。 外国人雇用がするにあたっては日本人雇用が進まない、最低賃金が上がって扶養範囲内で働ける人の時間が減ってきている。そのため人手が欲しいのにパートの人に無理を言えないジレンマ、若い人材が地域にいない、いても仕事が続かないという悪循環がある。それらを補うのに外国人の存在に頼らざる負えないし事業もたない。	職場と家の往復で同胞人と会う機会がないよう。同胞と交流できる場があれば。コロナが収まれば1度帰国させてあげればと。飛行機代を事業所で負担できればと考えている。	労働人口の減少により外国人に頼らざる負えない状況がある。国は外国人雇用のための優遇税制などの仕組みを作ればもっと雇用促進するのではないかなと思う。農業という分野は通常の労務体系(8時間勤務)ではできないところがあり、その枠組みだけで働くのは難しい。農業自体の環境を変え、超過勤務分を支払えるよう野菜価格の正当化も必要。農業は手間もかかる。そこを国や消費者に分かってほしい。地域は農業支援をする外国人を受け入れる姿勢はある。

3. 調査を行っての分析、提言

①「日本語支援」の場を増やす

生活に必要な日本語を支援できる体制を構築していくことが今後も望まれる。支援教室は外国人が自身の行動で参加しやすい場所にこそ必要で、外国人自らが選択できるくらいに「日本語支援」という場を増やしたい。そのためには、地域のみならず外国人を雇用する事業所にも日本語教室の意義を伝え、開設を促進していくことが求められる。そのためには、日本語支援の場を「住民サービスとしての協働型地域日本語教室」として位置付け、行政が支援していくしくみづくりができないだろうか。

②身近に感じる場所での多言語相談体制整備

多言語による情報提供および相談体制の整備が必要である。神戸市北神地域、三田市、西宮市北部は隣接し、人の往来もある。しかし行政区で分けてしまうと、外国人はそれぞれの都市部にある相談所に費用をかけて相談に行っている。また、多言語で情報を得ることは母語に触れ、安心感を生み出すため、気軽に訪問でき、多言語で相談できる場を作るとともに、行政情報提供を行う仕組みづくりがこれから必要になる。

③SNSで多言語の地域情報発信、「まちの活性化」

SNSを活用とした情報発信も重要である。在住外国人は、自分の住む地域の情報を求めている。イベントや子育て情報、子育て施設や観光地のスポット紹介などを多言語で発信し、参加しやすく訪問しやすい情報発信を行うことで、「まちの活性化」にもつながるのではないだろうか。

④ハラスメントと差別のない社内風土づくり

外国人材の登用(活躍)について、事業所が学ぶ機会を提供していく必要がある。今後外国人雇用を進めていくためには、職員研修の機会を充実させ、同僚として外国人を迎え入れる心構えやかかわり方、日本語の伝え方などを学ぶ機会を作り、ハラスメントや差別のない社内環境整備を考えてもらうことが必要である。そのためには、地域で外国人支援を行っている団体との連携も必要であろう。

⑤生活オリエンテーションが暮らしやすい日本での生活の第一歩

地域で暮らすうえでの守るべきルールなどを学ぶ機会として、在住外国人への「生活オリエンテーション」が必要である。ゴミの出し方や騒音など地域住民とのトラブルとなりやすいテーマに加え、自転車の乗り方や自転車保険加入の義務(兵庫県は義務化されている)、緊急事態での連絡方法(110番や119番への連絡の仕方や伝え方)など地域特有の情報を外国人自身が学び、自らの力で対応できるようになる場を作る。そのことで、外国人とともに暮らす地域共生社会づくりにつながるのではないか。

発行日 2022年2月

〈編集・発行〉

特定非営利活動法人場とつながりの研究センター

〒669-1533 兵庫県三田市三田町 29-14

TEL 079-553-2521 FAX 079-553-2522

メール kokusai@batotsunagari.net

大島 一晃 (理事・事務局長)

本田 文代 (国際事業部部長「北神日本語教室」コーディネーター)

ドウ・シ・ハ・エン (国際事業部 スタッフ)

休眠預金等活用新型コロナウイルス対応緊急支援として、
(公財)信頼資本財団が行う助成を受けて実施し、作成しました。

